

令和7年度（今年度）の学校評価

本年度の 重点目標	① 安全で安心な学校づくり ② 教育活動の充実と授業改善 ③ 教員の多忙化・多忙感解消		
項 目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
①	開かれた学校の推進	・ブログや校内のサイネージで学校の取組を随時発信する。	・発信情報の精選や効率的なブログ、サイネージ作成方法などを各部で工夫する。
	いじめ問題に対する組織的な対応の確立	・幼児児童生徒間で起きたトラブルは各部で情報共有し、必要に応じていじめ不登校対策委員会を開き、全体で指導方針等を検討する。	・実際にトラブルが起きたときに役割分担を明確にし、事実確認や指導を迅速に行う。
	主体的に健康や安全を意識し行動できる子どもの育成	・日々の指導に加え養護教諭や栄養教諭による授業や保健委員会の活動を充実させ、幼児児童生徒の健康、安全意識の啓発を図る。	教師が共通意識をもって指導に当たれるよう研修やヒヤリハットなどを活用する。学校での取組を家庭でも実践してもらえるようブログやサイネージ等を活用する。
	仲間と協働できる安全で安心な寄宿舎づくり	・舎生の実態を丁寧に把握し、係活動や舎生会、行事等を通して仲間と協働したり安心して生活したりできる寄宿舎を意識できるように働きかける。	・個々の目標や課題を指導員全体で共有し、日常生活や集団生活の中で連携して指導、支援する。
②	授業の充実・改善	・教師は、授業時間内に「まとめ」、「振り返り」の時間を設けることに努め、児童生徒自身が何を学ぶことができたのか、どこが分からなかったのかを明確にする。	・教師は、児童生徒の「振り返り」を基に、目標設定や指導の過程を適宜評価し、工夫及び改善を図る。
	キャリア教育の推進	・「先輩の話を聞く会」や「卒業生の話を聞く会」、児童会と生徒会の交流、部を越えた授業交流、交流プラザでの交流を活用して、自分の将来像をイメージできるようにする。	進路に関わる情報を分かりやすく発信していく機会を設ける。より充実した交流になるように交流の事前、事後に他部や他分掌と情報共有の場を設ける。
	正しい日本語の読み書きの力の育成	・日記、コラム学習、作文など文を書く機会を数多く設定し、指導方法の工夫を各部で検討し、日本語の読み書きの指導に取り組んでいく。	・日本語の読み書きの指導に関する具体的な取組を部内・部間で共有する機会を設け、連続性のある指導につなげる。
③	効率的な会議運営	・協議内容に応じた会議方法で行う。	・事前の情報共有や書面会議などの方法を検討することで、会議を円滑に進めたり、情報のもれを防いだりする。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	① 安全で安心な学校のために、実践的な取組がなされている。 ② 教育活動の充実のために、授業改善、キャリア教育の推進等の取組がなされている。 ③ 教職員の多忙化・多忙感解消のために、業務の効率化のための方策がとられている。		

令和6年度（昨年度）の学校評価

本年度の 重点目標	①安全で安心な学校づくり ②教育活動の充実と授業改善 ③教職員の多忙化・多忙感解消		
項 目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼稚部	①家庭との連携の充実	・保護者への丁寧な説明を行う。	保護者の評価結果は、教員が幼児の様子を分かりやすく伝えていると感じた保護者が昨年度より多くいた。しかし、より詳しく知りたいという保護者の意見があるため、部全体で伝達の方法と内容の共通理解を継続して行う。
	②幼児同士のやりとりの増加	・やりとりのある活動を設定する。	教員の評価結果から、活動の設定に困難さと課題をもった教員がいることが読み取れた。次年度に課題を引き継ぎ、幼児の実態に合った活動内容と指導方法の検討、やりとりに必要な語彙の指導を進める。
	③活動内容の精選	・指導目標を明確にして、内容を検討する。	教員の評価結果から、指導目標を明確にもって検討、実施したが、ゆとりある活動に至っていないことが読み取れた。幼児の確実な成長のためにゆとりある活動を今後も目指し、継続して検討を進める。
小学部	①学校生活のきまりの定着	・事前の説明、称賛、促しを行い、家庭とも連携する。	教科書やノートなどを授業開始前に準備したり授業中に教員に注目したりすることができるようになった。毎日連絡帳を書くことで、家庭での準備内容が伝わりやすくなった。今後も、子どもたちに伝わりやすい関わりを続けていく。
	②正しい実態把握と適切な課題設定	・客観性のある実態把握を行う。	日々の観察や單元ごとの小テストなどから、実態に基づいたグループ編成や課題設定をしたことにより、児童が授業で意見を言えるようになった。理解した内容を宿題にすることで家庭でも取り組むことができた。
	③スムーズな会議の運営	・グループウェア等を活用し、事前に協議を済ませる。	議題数、児童や教員の情報交換によって時間を要することがあったときには時間内で終わらないことがあった。児童の情報については学年会の記録を回覧することで、時間短縮と必要な情報共有を迅速に行うようにする。

中学部	①落ち着いた生活態度の育成	・規律を守る啓発や環境整備を行う。	保護者と連絡を密にとるなどの連携をすることで、生徒は落ち着いた生活を送ることができたが、マナーやルールの指導については、まだ足りないと考えられる点もある。今後も、全体への話や掲示に加え、具体的な場面での適切な対応を丁寧に行っていく。
	②主体的に学習する生徒の育成	・教材や掲示を工夫し、生徒が分かる授業を行う。	行事や学習に見通しがもてる掲示の工夫などによって、適切な目標を立てて活動できた。家庭学習においては、適切な課題の提示や自主学習の大切さを伝えることで、学びへの意欲を引き出す支援を続けていく。
	③風通しのよい職場づくり	・指導や支援の困り感を共有し、協力体制を築く。	教員間での情報の共有については、多くの教員から高評価を得た。今後も必要な情報は共有した上で、生徒へは適切な指導につなげ、教員間では協力し合う体制を維持していく。
高等部	①関係機関との連携	・校内外で連携をとり、個々の職員や関係機関の専門性を有効に活用する。	学校関係機関のみならず、多岐に渡って連携をとることができ、教員からの評価も高かった。連携を通じて学校だけでは判断できないことや専門外のことが分かり、大変参考になった。今後は、生徒の卒業後の生活にも目を向け、必要であれば家庭と専門機関とつなげるといった連携にも力を入れたい。
	②進路実現を目指した授業づくり	・進路実現のための授業づくりと授業力向上のための研修に取り組む。	授業検討会や外部の研修、授業研究会に積極的に参加する教員が増えた。保護者・教員とも分かりやすい授業を行っているかについては、「まあそう思う」の評価が多いため、「そう思う」という評価が増えるよう努めたい。今後は、進学指導に関する情報収集を強化し、幅広い進路指導に対応できる授業力を更に磨きたい。
	③教職員間の情報の共有	・学年や教科内で教材や必要な情報の場所を決め、精選・分類する。	業務改善として、各教科の教材データの整理や情報共有の効率化、担当者間のコミュニケーションをとることに努めた。
総務部	①開かれた学校の推進	・定期的に掲示物を確認し、掲示物の内容の更新を適宜行う。	総務部会では、毎回、掲示物の確認をするよう呼びかけ、掲示物の更新を各部で確認した。各部の写真掲示の担当者を中心に、最新の内容になるよう更新を行えた。今後も継続していきたい。

教務部	②授業の充実・改善	・授業チェックシートの活用と児童生徒が学びを振り返る機会を設ける。	今年度は、授業の評価・振り返りに重点を置いた。授業の終わりに特に印象に残ったことを書いたり、タブレット端末で理解度を入力したりするなど、振り返りの方法は教員・教科によってさまざまな形で行った。校内研究や教務部からの呼びかけを通じて、各部の教員が授業評価を適宜行う意識をもち、それを次回以降の授業に反映させることができた。次年度は、テストの結果やその後の手だて、学習の進め方等を生徒、保護者と情報共有することにも努めたい。
生徒指導部	①いじめ問題に対する組織的な対応の確立	・いじめ不登校対策委員会で、いじめや不登校に関わる問題を全体で共有し、指導方法等を検討する。	いじめ不登校対策委員会を適宜開き、いじめや不登校に関わる事案を共有し、対応を検討することができた。実際にトラブルが起きたときに役割分担を明確にし、事実確認や指導に対して迅速に対応することが課題である。また、学校全体で行ういじめ防止活動について、アンケート結果から「わからない」という回答が多かった。児童会、生徒会が行っているいじめ防止活動を多くの人に知ってもらうために活動内容や情報発信の工夫が必要である。
保健体育部	①主体的にけがや病気を予防・対処できる子どもの育成	・集団指導に加え、日頃から個々に合った個別指導を充実させる。	養護教諭による健康に関する授業や外部講師によるがん教育についての講演を実施した。また、今年度より児童生徒が自身の健康について考える場を増やすことを目的として委員会活動の中に保健委員会を立ち上げた。生徒を対象としたアンケートの結果からは、8割以上の生徒が自身の健康について興味をもち、健康に過ごすために気を付けているという回答を得られた。今後は学校での保健教育について広く発信をし、保護者と共通認識を持って指導に当たれるよう努めていく。
進路・地域支援部	②キャリア教育の推進	・先輩の話を聞く会や卒業生の話を聞く会、児童会と生徒会の交流、部を超えた授業交流、交流プラザでの交流を活用して、自分の将来像をイメージできるようにする。	今年度も卒業生の講演や進路に関わる情報の発信をし、将来のイメージをもてるように取り組んだ。保護者からは概ねよい評価をいただいたが、「わからない」との回答もあった。今後も進路に関わる情報を発信するとともに、日本語力や規範意識の向上に向けて他部とも協力していくとともに、長期的スパンでキャリア教育について考えてもらうように家庭と連携して取り組んでいく。

自立活動・研修部	②正しい日本語の読み書きの力の育成	・日記、コラム学習、作文など文を書く機会を数多く設定し、指導方法の工夫を各部や研究グループで検討し、日本語の読み書きの指導に取り組んでいく。	日記やコラム学習などの個に応じた日本語の読み書きの指導を、学校全体で継続的に行うことができた。研究グループでの授業検討会や他部との合同研修を実施するなど、教員間での指導内容・方法の情報共有の機会を設けた。今後も指導方針や指導方法の共有を大切にし、読み書きの力の育成に当たっていく。
寮務部	①笑顔あふれる安全で安心な寄宿舍づくり	・係活動や舎生会、行事等を通して舎生の実態を丁寧に把握し、一人一人の心身の発達に寄り添った支援と指導を実践する。	保護者からは概ね良好な評価をいただいた。行事では、生徒同士で意見を出し合ったり、工夫して運営したりすることができた。避難訓練にも真剣に取り組むことができた。仲間意識が育ち、普段の生活も落ち着いていた。通学生への行事参加の呼びかけなど寄宿舍を保護者、児童生徒に知ってもらふ活動を今後も検討していく。
総合評価	① 安全で安心な学校づくりのための防犯・防災訓練や美化活動について、幼児児童生徒に訓練実施日を知らせないで、より実際の状況に近い訓練を行うことができた。また、児童生徒への学校生活アンケートや保護者との連携により、児童生徒同士のトラブルを早期に把握し対応することで解決につながったケースもあった。 ② 教育活動の充実のため、部ごとの課題に応じた部別研修や研究授業・授業検討会を行った。授業については多くの保護者から肯定的な評価を得られたが、年齢が上がるにつれて肯定的な評価の割合が下がっている。聾学校として見て分かる授業づくりを進めたい。 ③ 教職員の多忙化解消については、各部の状況に合わせた取組をしているが、それが多忙化解消につながっているという実感がない教職員もいる。今後も教職員から業務の効率化に向けての意見を集約し、改善策を講じていく。		